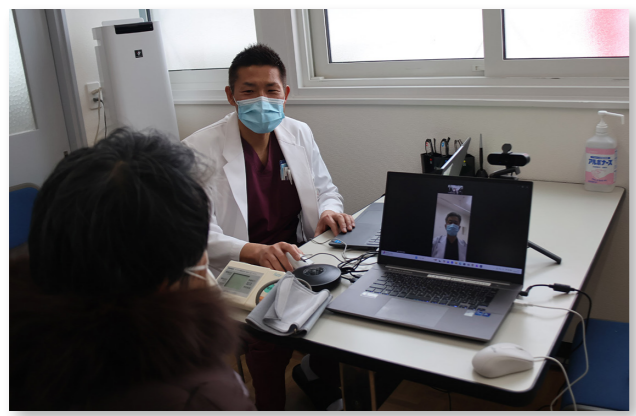


1/27 認知症サポーター養成講座（雄武中学校）
認知症への理解を深める

雄武中学校において、認知症サポーター養成講座が行われ、2年生16人が参加しました。地域包括支援センターの職員を講師に、認知症について学び、当事者や家族の気持ちなどへの理解を深めました。生徒たちは「認知症が昔は痴呆と言われていたことを知らなかった」「単なる物忘れではなく、脳の病気であるということを理解できた」と話していました。



↓講座の様子



↑オンライン診療の様子

1/27 道内初のオンライン診療
北見幌内郵便局で開始

北見幌内郵便局で、広域紋別病院によるオンライン診療が始まりました。北海道内の郵便局では初の取り組みで、近隣に医療機関がない無医地区の支援が目的です。郵便局内に設けた個室でビデオ通話による診察を受けられるほか、診療看護師が現地で触診や採血なども行います。診療費は郵便局で支払い、薬は後日自宅へ郵送されます。利用者からは「初めは緊張したが、通院時間が大幅に短縮され便利で、機会があればまた利用したいです」と好評でした。今後は月1〜2回の実施を予定しています。



↓（左から）増田澄夫さん、高橋町長、木元之生さん

1/29 交通安全功労表彰
交通事故防止に大きく貢献

令和3年度から交通指導員として交通安全思想の普及と実践活動を積極的に推進し、地域住民の交通事故防止に大きく貢献した功績が認められたことから、交通指導員を務める木元之生さん、増田澄生さん、高橋多歌子さん、大井葉子さんが交通安全功労賞を受賞しました。心からお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。



↑助け合うことの大切さを語る笠井信輔氏

2/2 漁業協同組合「一日協同組合学校」
笠井信輔氏講演会

雄武町漁業協同組合主催の「一日協同組合学校」が雄武町民センターで開催され、漁業関係者をはじめ町内外から約230人が来場。フリーアナウンサー笠井信輔氏を講師に迎え、笠井氏が経験した取材などの裏話や、自身の闘病生活で感じた『助け合うことの大切さ』について話しました。2024年の能登半島地震の取材で笠井氏は「避難所生活の中でも人との絆を大切に、支えあって暮らす住民の姿に心を打たれた」と当時を振り返りました。参加者からは『助け合い』は、今の時代だからこそ大切だと感じました」と話していました。



まちのできごと

2/7~9 武雄市児童交流事業
雄武の冬を満喫

2月7日から3日間、佐賀県武雄市から児童10人と引率者3人の訪問団が来町しました。ホテル日の出岬で歓迎会が開かれ、町長や関係者から歓迎の言葉が贈られ、武雄市の児童による歌の披露もありました。雄武小学校で行われた児童交流では、雪国ならではの雪山すべりなどの冬遊びを体験し、全身で雪を楽しむ姿が見られました。児童たちは、交流を通じて互いの絆を深めていました。



↑スノーラフティングを楽しむ子どもたち

↓歓迎セレモニーの様子①



↑歓迎セレモニーの様子②

2/7,8 こども冬まつり
雪の中でも元気いっぱい

旭日公園で「こども冬まつり」が開催されました。前夜祭では、児童クラブの児童による「聖者の行進」「ミッキーマウスマーチ」のハンドベル演奏に続き、花火の打ち上げが行われ、冬の夜空を鮮やかに彩りました。本祭では、スノーモービルや雪山すべりなどの人気のアトラクションのほか、あたたかい雑煮や焼きそばなどが振舞われ、来場者には笑顔が広がりました。最後にはスノーフラッグなどの競技の表彰式と抽選会が行われ、参加者は元気いっぱいに冬の一日を楽しんでいました。

↓雪山あそびを楽しむ子どもたち



↓段ボールベッドを組み立てる様子



2/15 雄武町防災訓練
避難訓練で防災意識向上

「令和7年度雄武町防災訓練」を実施しました。訓練には魚田地区の住民が参加し、震度4の地震による津波警報が発令されたことを想定した避難訓練や、町職員による避難所の開設訓練を行いました。その後、音稲府地域住民センターで、北海道北見方面興部警察署警備係長の桑田清則氏と幌内駐在所長の田邊真宗氏、網走地方気象台火山防災調整係長の坂口恵子氏による講話が行われ、参加者は「冬の訓練に参加できて大変良かった」と話していました。